

花巻 歴史探訪

【問い合わせ】本庁文化課(☎23-52600)



江曾一里塚

岩手県指定文化財(昭和44年6月指定)

石鳥谷町八幡の江曾地区の一角、国道4号と市道との交差点に、「江曾一里塚」があります。

慶長9年(1604年)に時の将軍 徳川秀忠が家康の命によって築いたのが始まりと言われる一里塚。それは、江戸日本橋を基点とした東海・東山・北陸の三道に、一里(約3.93^{キロメートル})ごとに五間(約9^{メートル})四方の塚を築いたものです。一カ所につき道の両側に一つずつ、計二つが造られました。塚の上には榎や松、杉、桜などが植えられ、旅人たちが道のりや方向を知るための貴重な目印となりました。

江戸時代、現在の国道4号は奥州街道(奥州道中)として多くの往来がありました。南部領内の奥州街道には、慶長15年(1610年)ごろ一里塚が造られましたが、この江曾一里塚はそれから48年後の明暦4年(1658年)ごろ、奥州街道の路線変更に伴い造られたと考えられています。

現存するのは、東側の一つのみですが、大きさや規模はほぼ当時のまま残っています。江戸日本橋から132番目に当たる一里塚です。